ある日の――〝白電気〟

四山　A・I生

手記

ある日、十八卸コンベアー当番に行った。一番方でのことである。

十八卸は、もともと狸の通路といわれるほど条件が悪く、したがってコンベアーも故障続出で、一日に二時間も運転できればよい方である。

採鉱担当の白電気（坑内幅にともるキャップランプの色の一つで管理坑のお偉ら方がかぶるところから、お偉ら方のことをこう呼ぶ）はこれに活を入れるために、毎日のように入坑しては陣頭指揮にあたっている。

さてその日も入坑してきた白電気は、よつんばいになりながら、コンベアーを点検してまわった。

この日は前日に手入れがしてあり朝から順調に運転していた。

十一時過ぎ、コンベアーが空転していたので、私は散水をやめて他の個所に行った。ところが例の白電気が、私がとめた散水個所の前で腰をおろして、青電気（坑制のこと＝前例同様）の一人と何か話していた。

十分ほどすると、コンベアーに石炭が流れてきた。それを見て、白電気は散水個所からでてきた。私は、だからとめた水をまだださねば…と思って奥へ行った。私はそのとき心のなかでは、「元保安副長」の白電気ではあり、しかも散水個所にいたのだから、気をきかして水をだしてくれているものとばかり思った。が、水はでていなかった。炭じんはもうもうと舞い、水はタラリともでていない。白電気はコンベアーの調子はいいし、石炭は流れだしたし、それだけに安心してでて行ったのである。彼には散水のこと、保安のことにはまったく関心がなかったのだ。そればかりか、その場を何人か通った青電気さえ、だれ一人散水のことに関心は示さなかった。

白電気といい青電気といい、彼らにある関心は、出炭のことについてだけだ。大災害を二度もくり返しながら、なお保安無視の態度をくずさぬ三井鉱山の姿勢がそのまま、ここにある。

私はこの事実を通じて、いかに坑場闘争が大事であるかを再確認した。

（四山支部第二坑場分会新聞〝坑場の響〟から）

大にぎわいの囲碁祭

三川支部で盛大な囲碁祭

▼…十一月十二日三川支部では盛大な〝囲碁祭〟が開催された。同支部の囲碁愛好者が結集している〝三々会〟（会員五十人で、谷端支部長が会長さん）が、年一回開く定期総会を機に、三十七年春の結成以来、こんどが二回目の催し。ことしはとりわけ盛大で、七十人からの参加者だった。

会員には、五段の橋口初義さん（四十二才の仕繰工で、現在安全推進委員）など、すぐれた打ち手がいて指導にあたっているが、この機に紙上から三々会の発展を祈っておこう。

12人に1人が病人

先進国日本の国民生活

○…朝めしも食べずに家を飛び出し、満員電車にもまれて出勤。昼食はラーメン一杯ですませ、仂き疲れて帰る一へやのアパートには数人の家族が……。さきごろ発表された厚生、農林両省の「生活総合調査（四十一年度）」にあらわれた都市勤労者の姿です。

○…この調査は昨年十、十一月全国二十四万世帯を対象に行なったもの。それによると、一世帯当りの平均年間所得は、農家六十五万円、非農家七十二万円。住宅は三分の一がなんらかの意味で不満をもっています。七大都市では一へや住まいの世帯が一三％、全体の半分が二へや以下。とても坑場の疲れをいやすなどという状態ではありません。

○…衣・食生活面では――驚いたことに「朝、食事をしない」というのが六％もあります。これはおとなから子どもまでふくめたもので、勤労者だけみると朝の欠食者は十人に一人以上。昼の外食はもっぱらパン、めん類。「即席めん」を一週間以内に〝主食して食べた〟という家庭が、農家で三四・三％、非農家で三七・四％あります。

○…こんな生活が健康にも影響しています。調査結果では国民十二人に一人が病気という勘定。トップの胃腸病一九・三％、ついで呼吸器系一七・二％という数字は不規則で貧しい食生活、スモッグなど公害の反映でしょう。病気にかかると治療に平均八・四日かかるというのも、疲労の累積のためにちがいありません。これが〝国民総生産世界第三位〟の国民の暮らしとは。【KNA】

職場に〝軍隊組織〟

日本新潟運輸では十一月、「本社人事部板垣竹雄」の名で自衛隊出身者百七人に自衛隊の外郭団体「隊友会」を結成。自衛隊出身者を再教育して、労仂組合を切りくずさせようとのねらいであるが、隊友会は労仂組合の分裂、右傾化のための活動を行なっている。組合では警戒をきびしくしている。

夫人一言

板橋さん

内坑で体も痛い

昭和十年から炭鉱に入って勤続三十三年、五人家族の主人で五十才の炭鉱夫であるあなたが、ほとんど満勤して今月は手取りが二万五千九百円。おばあちゃんと高校二年の長女、来年は高校に入る次女の五人の生活は、どう切りつめても月に三万以上はかかります。だから私の内坑は絶対必要で、朝八時から夕方五時までで、日当五百円といういまの仕事はやめたくてもやめられません。

私の内坑も満勤手当が三千円つくだけで何の保障もなく、クズ紙の選別という仕事でカタから背中が神経痛のように痛み、とてもつらい。

満勤手当の三千円も、もし一方でも休めば一ぺんに五百円にへらされる。家庭をもっている主婦の内坑では、満勤というわけにはいきません。

こんな生活で家のことは、まだ元気なおばあちゃんにまかせっきりです。

〝お父さんのごつなか〟

二人の娘たちもそうですが「お父さんのごつなか」という批判がわが家では一番つよいですね。

坑場では中央委員のあなたは家をあけて組合ばっかり。昼は仕事のこと、夜は組合のことで家にはいないので、親とはなすことがない、というのが娘たちの言い分です。

あなたは『主人のしることをあまり知りすぎるといかん。人それぞれ方針があるからあまり知らん方がいい。たとえば、おやじが議員になると奥さんまで議員になったような顔をする人がいるが、そうならんように話さんのだ』といっていますが、あなたの方針はずいぶん、家では評判が悪いようです。

私の神経痛も、仕事をやめんとよくならんと医者にいわれているので、せめて私が内坑をやめられるぐらいの金をとってくれたら、というのがいま一番のユメです。

昼は仕事……夜は組合で留守ばかり

四山社宅板橋よしのさん（45才）

ああどうすればいいんだ……

K・M生

物価値上げ政治
もうがまんができぬ
みんなのかあちやんおこつてる
うちのかあちやん頭にきてる
どうなつちやつてるの、本当に

大根一本七十円
白菜一kg五十円
玉ねぎ一kg八十円
ばれいしよ一kg七十円
ちよつとバスに乗つても三十円
とうちやんの好きなお酒も値上げ
タバコもあがる
あがらないのは
とうちやんの頭と賃金だけ

五万円のボーナスでは
家計のやりくりまつたくつかぬ
かあちやんが頭にくるのもムリは
ない

思わず飛びだす腹からの怒り
ああどうすればいいんだ

×　×

（宮浦支部常一番新聞〝きづな〟から）

詩

家族ぐるみの闘いということ

宮浦支部　平田光男

俺は
痛切に反省させられた
これまではただ
地域の役員の一人として
家族ぐるみの闘いのことを
口先だけでいっていたのだ
ということを
かあちゃんが
CO闘争で上京した後
取り残されてしまった
小学三年の坊主と
五才のあまえん坊を抱え
朝夕の炊事一切を
かたずけなければならぬ俺の
責任の重さ
人間が食べてゆく事の
これほど重大なことを
あたり前の事のように
生きてきた妻の労苦を
身をもって教えられた
俺
元気な俺にじてこのありさま
ましてガスを吸わされた仲間
その家族
殺された仲間の遺族
それらの人々の苦しみを
知るべし
人間と人間との闘いを
ひき起こす奴はだれか
それは
人間を人間とも思わない
そいつ
そのことを
俺は闘いのなかから学んだ
陽の光を知らず
危険にさらされて
真暗い世界のなかで仂く
俺
ときとして
連帯感が絶たれたように
錯覚することもあるが
それをはねっ返して
前進！
今俺は
痛切に反省させられている
これまではただ
家族ぐるみの闘いのことを
口先だけでいっていたのだ
ということを

かえうた……

困っちゃうな

私の気持

困っちゃうな
保安靴を買わされて
どうしよう
入れ場に困っちゃう
大きな靴をもてあまし
くしゃくしゃしちゃう
みんなが闘いたら
まったく困ると
だれでもいっている
困っちゃうな
脱衣箱をひろげてよ

（宮浦支部常一番新聞〝きづな〟から＝作者不詳）